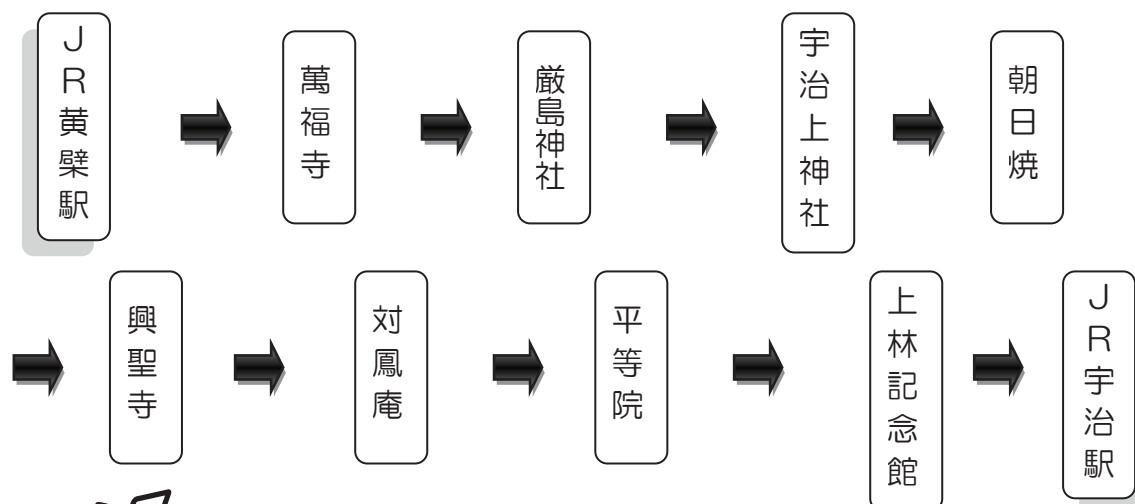


おすすめポイント

春風薫り、茶ノ木が新芽を吹き出すころに、萬福寺総門前の宇治茶発祥記念碑を起点として、お茶文化に関係する興聖寺、上林記念館など、いくつかのスポットをめぐりながら、今日の宇治茶文化の発展に寄与してきた先人たちの足跡を偲びます。



ここに注目



●駒の蹄影園の碑（萬福寺総門前）

鎌倉時代、明恵上人が村人に茶樹の植え方を教えたといわれる記念碑。「都賀山の尾上の茶の木分植えて あとそ生べし駒の蹄影」と刻まれている。

1926（大正15）年宇治郡茶業組合により建立。



●上林記念館長屋門

今に残る江戸時代の茶師の名門、上林家の長屋門。「ずいずいずっころばし〜」のお茶壺道中が今にも出てきそうな堂々たる佇まい。館内にはお茶の資料館がある。

